

# 位相数学 1 演習 問 9.6.

AHA23005 板倉 洸基

*prop.* 有界閉かつその相対位相が離散位相である  $\mathbb{R}^n$  の部分集合は有限集合。

*pf.*  $\forall X \subset \mathbb{R}^n$  : (有界閉集合  $\wedge$  相対位相が離散位相) をとり、 $X$  は無限集合だと仮定する。

$X$  は有界だから、 $\exists a_{0,1}, \dots, a_{0,n}, b_{0,1}, \dots, b_{0,n} \in \mathbb{R}$  s.t.  $X \subset [a_{0,1}, b_{0,1}] \times \dots \times [a_{0,n}, b_{0,n}] =: I_0$

ここで、各辺を中点で分割し、 $I_0$  を  $2^n$  個の閉区間に分割すると、

$X$  は無限集合だから  $X \cap I_0$  も無限集合なので、 $2^n$  個の閉区間のうち、

少なくとも 1 つと  $X$  の共通部分は無限集合となる。

このうちの 1 つを  $I_1 = [a_{1,1}, b_{1,1}] \times \dots \times [a_{1,n}, b_{1,n}]$  とし、

同様にして各  $k \in \mathbb{N}$  に対して、 $I_k$  を定めることで  $\{I_k\}_{k=0}^{\infty}$  を定義すると、

$1 \leq \forall i \leq n, a_{k,i} \in \left\{ a_{k-1,i}, \frac{a_{k-1,i} + b_{k-1,i}}{2} \right\}, b_{k,i} \in \left\{ b_{k-1,i}, \frac{a_{k-1,i} + b_{k-1,i}}{2} \right\}$  より、

$a_{k-1,i} \leq a_{k,i} < b_{k,i} \leq b_{k-1,i}$  だから、

$I_0 \supset I_1 \supset \dots \supset I_{k-1} \supset I_k \supset \dots$  となり、

$\forall k \in \mathbb{N}$  に対して  $I_k$  は閉区間だから、 $I_k \neq \emptyset$

$\therefore \bigcap_{k=0}^{\infty} I_k \neq \emptyset \quad \therefore \exists c \in \mathbb{R}^n$  s.t.  $c \in \bigcap_{k=0}^{\infty} I_k$

ここで、 $l_{k,i} := b_{k,i} - a_{k,i}$  とすると、

$I_k$  の定義から、 $l_{k+1,i} = \frac{l_{k,i}}{2}$  なので、 $l_{k,i} = \frac{l_{0,i}}{2^k}$  であり、

$d_k := \sqrt{l_{k,1}^2 + \dots + l_{k,n}^2}$  とすると、

$d_k = \sqrt{\frac{l_{0,1}^2}{2^{2k}} + \dots + \frac{l_{0,n}^2}{2^{2k}}} = \left(\frac{1}{2}\right)^k \sqrt{l_{0,1}^2 + \dots + l_{0,n}^2} = \frac{d_0}{2^k} (> 0)$  となる。

また、 $\forall k \in \mathbb{N}$  に対して、 $\forall x \in I_k$  をとり、

$x = \begin{pmatrix} x_1 \\ \vdots \\ x_n \end{pmatrix}, c = \begin{pmatrix} c_1 \\ \vdots \\ c_n \end{pmatrix}$  と書くと、各  $i$  に対して、 $x_i \in [a_{k,i}, b_{k,i}]$  より、 $|x_i - c_i| \leq l_{k,i}$

$\therefore \|x - c\| = \sqrt{(x_1 - c_1)^2 + \dots + (x_n - c_n)^2} \leq \sqrt{l_{k,1}^2 + \dots + l_{k,n}^2} = d_k < 2d_k = d_{k-1}$

$\therefore x \in B(c; d_{k-1})$

$\therefore I_k \subset B(c; d_{k-1})$

ここで、 $X$  の相対位相は離散位相だから、 $\{c\}$  は  $X$  の開集合なので、

$\exists \varepsilon_c > 0$  s.t.  $B(c; \varepsilon_c) \cap X \subset \{c\}$

$\therefore \forall x \in X \setminus \{c\}, x \notin B(c; \varepsilon_c)$

ここで、 $\varepsilon_c > 0, d_0 > 0$  より  $\frac{d_0}{\varepsilon_c} > 0$  であり、 $\log_2 \frac{d_0}{\varepsilon_c}$  以上で最小の自然数を  $K$  とすると、

$K \geq \log_2 \frac{d_0}{\varepsilon_c}$  より、 $2^K \geq \frac{d_0}{\varepsilon_c}$

$\therefore \frac{d_0}{2^K} \leq \varepsilon_c$

$\therefore d_K \leq \varepsilon_c$

$\therefore B(c; d_K) \subset B(c; \varepsilon_c)$ かつ、 $I_{K+1} \subset B(c; d_K)$ より、 $I_{K+1} \subset B(c; \varepsilon_c)$

ここで、 $\{I_k\}_{k=0}^{\infty}$ の定義から、 $I_{K+1} \cap X$ は無有限集合だから、 $\exists x \in (I_{K+1} \cap X) \setminus \{c\}$

$\therefore \exists x \in B(c; \varepsilon_c) \cap X$  s.t.  $c \neq x$ となるが、

これは、 $\varepsilon_c$ の取り方に矛盾する。

以上より、 $X$ は有限集合である。

よって、 $\mathbb{R}^n$ の有界閉集合で、相対位相が離散位相になるものは有限集合なので、 $\mathbb{R}^n$ の部分空間としては、相対位相が離散位相である無限集合は実現できない。■